

# 琉球大学学術リポジトリ

## 《道徳・実践報告》 協調学習を取り入れた道徳の実践報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属中学校 公開日: 2015-12-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 神谷, 千恵子, 谷郷, 多恵子, 玉城, 健一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/33052">http://hdl.handle.net/20.500.12000/33052</a>

## 協調学習を取り入れた道徳の実践報告

神谷千恵子\* 谷郷多恵子\* 玉城健一\*

\*琉球大学教育学部附属中学校

### I はじめに

本校では昨年度より、全教科で協調学習を取り入れた授業を行っている。そこで、学校教育全体で生徒一人ひとりをはぐくむという視点から、今年度は研究の対象を教科だけではなく、協調学習を活用した道徳の授業にも試験的に取り組んだ。ここでは、今年度の道徳の実践報告を行う。

### II 研究目的

知識構成型ジグソー法による道徳の授業実践を行い、その成果と課題から今後の本校における道徳授業の研究推進の手がかりを得ることを目的とする。

### III 授業実践

#### 1 実践内容

##### (1) 単元名「情報モラルについて」

現在、私たちはテレビや新聞、雑誌、インターネットなどを通して、とても多くの情報に接している。一度に多くの情報をやりとりするネットワークの発達により、これまでは成し得なかったサービスなどが数多くあらわれて、私たちのくらしや社会を支えるようになった。特に、めざましいのが小型のパソコンを持つようになったといわれるスマートフォンの普及である。様々な機能が取り入れられ便利になった。しかし一方では、個人情報等を公開したり、書き込みしたりすることによるトラブルが社会問題となっている。そこで情報の収集や発信に対する道徳的判断力をはぐくむことをねらいとして本単元を設定した。

人との関わりの中で生きていく私たちは、インタ

ーネット等を通じて友人や仲間、同じ趣味・関心を持った人との多様な交流を通じて、さまざまな見方や考え方に合う。その際に、情報を吟味しながら収集・発信し、さまざまな見方や考え方を受け入れ、生かしていく視点を持つこと、また、情報を受け取る相手が不特定多数であることを意識した上で、情報収集・発信のあり方について考えていくことは、情報モラルを身につけていく上でも大切であると考ええる。そこで、メインの課題を「情報を収集・発信するとき、君ならどうする？」と設定し、「SNSについて」「ツイッターについて」「LINEについて」の3つの視点からエキスパート課題を準備し、対話を通してさまざまな考え方に触れることによって自ら考え、判断し、自らの行為の結果に責任を持って行動しようとする態度をはぐくみたい。

#### (2) 具体的な内容

##### ① メインの課題

「情報を収集・発信するとき、君ならどうする？」

##### ② エキスパート活動

**導入** 約4分

**エキスパート活動**・約14分

##### A 「スマートフォン」について考える

・資料を読み、スマートフォンの便利さと与える影響について、自分の考えを持つことができる。

##### B 「SNS のつながり」について考える

・投稿した人の立場に立ち、行動や心情について考え、自分の意見を持つことができる。

##### C 「LINE いじめ」について考える

・いじめられた側やいじめた側の立場に立ち、そのときの心情や行動について、自分のこととして捉えようとしている。

エキスパート課題

エキスパート資料 A

(資料1)

中学生の所有端末別SNS利用率

●インターネット利用者、人口比の両方が昨年に引き続き増加。中学生にも普及しているサービスは YouTube で普及率は70%。また、スマートホン所有の中学生のLINE 利用率は77%で、フィーチャーフォン所有の中学生の約3倍の利用率。Twitter 利用率は44%で約2倍の利用率である。中学3年生のスマートホン所有率は53%、高校1年生のスマートホン所有率は83%。高校入学時に3割の生徒がスマートホンに買い換える傾向がある。\*フィーチャーホンスマートホン以外の電

●日本では3人に1人が使う無料通話アプリ「LINE」によって、「会話」は格段に速く簡単に became. 無料で通話やメールができ、スタンプや絵文字を送ったり、グループを設定すれば一度に最大100人にメールを送信したりできる。一方で、LINE がらみのいじめやトラブルが増し、不安感からメッセージ交換が長時間に及ぶことがあり、「LINE 疲れ」で寝不足になる中高生も少なくない。

(資料2)

ポイント①青少年の携帯電話・スマートフォンの所有状況

スマートフォンを所有する青少年が増加

年齢	性別	スマートフォン所有率
10歳	男	1.0%
10歳	女	0.0%
11歳	男	1.0%
11歳	女	0.0%
12歳	男	1.0%
12歳	女	0.0%
13歳	男	1.0%
13歳	女	0.0%
14歳	男	1.0%
14歳	女	0.0%
15歳	男	1.0%
15歳	女	0.0%
16歳	男	1.0%
16歳	女	0.0%
17歳	男	1.0%
17歳	女	0.0%
18歳	男	1.0%
18歳	女	0.0%

2年2組みんなからの声 (メールのやりとりでいいこと・困ったこと)

- 酷から押ってきてLINE するときは、朝起きるのがつらい。
- メールで言葉の行き違いがあって誤解されたことがある。
- もう、寝るって言えない。
- ガラケー持っているけど、スマホがほしい。うらやましい。
- ゲームとかYouTube 見てたら時間を忘れてしまう。
- みんなとの会話が楽しい。
- 友だちが増えた。
- 他校の友だちができた。
- 宿題とか、明日の日程とか聞ける。
- 先生も一緒にLINE やろー楽しいよ

結果発表

資料から、スマホが普及するにつれて、どのようなことが予想されますか？

エキスパート資料 C

急増LINEいじめ..仲間内でエスカレート

このころ複数の友人に「つらい」「死にたい」と相談していたAさんは、早朝、マンションから飛び降りた。携帯電話の未送信メールには「みんな 眠ってやる」と記されていた。その後Aさんを中傷していたBさんは「私のせいだ。私も死んだ方がいいのかな」と書き込んだ。だが、通夜の席にはこう書き込んだ。「お返夜 NOW」

課題 いじめられた側のAさん、主にいじめた側のBさん それぞれの立場にたって考えてみよう。あなたならどうする？

エキスパート資料 B

広がるSNS！ つながるSNS！

がんばろう日本

【資料1 ローソン事件】  
アイスクリーム用冷蔵庫の中に入る男性(M)中央の上にはしっかりと「LAWSON」の文字が 記載されていることからこの店は間違いなくローソンであることが確認できる。また投稿された容疑のコメントにも「本当に悪い」「Mローソンでは買わない」などのクレームが返っている。さらにネット上では、このローソンの場所の特定が済み、店舗の場所が明かされたURLも掲載されている。いずれにせよ冷蔵庫の中に入るといふ大層不衛生な事実が暴露してしまえば、ローソンの風評被害は免れないだろう。

結果発表 人はなぜ、SNS上に様々な情報を公開するのだろうか？

ジグソー活動・約20分

- ① 各エキスパートで話し合った内容を互いに発表しあう。
- ② 各エキスパート活動の考えを統合して課題を解決していく。
- ③ ジグソー課題についてクロストークに向け、班で出した意見をメモする。

クロストーク・約12分

- ① 各班でまとめた考えを全体で意見交流。
- ② メインの問いに対する最終的な自分の考えをワークシートに記入。  
「情報を収集・発信するとき、君ならどうする？」

ア. 生徒の解の変化

メインの課題「LINEなどのSNSを使うとき あなたならどうする？」について、ジグソー活動する前と後の記述を比較すると次のような変容があった。

生徒 A	[学習前の解] 言葉づかいに気をつける。・時間を決めて午後 10 時以降は使わないようにしたりする。
	[学習後の解] LINE は友だちがたくさんできるけど、トラブルも多くなる。いじめも起こったりするから、あまり LINE を使わないで、友だちと話す機会を多くする。また、自分自身の言葉一つ一つに責任を持って相手の気持ちも考えて使いたいです。
生徒 B	[学習前の解] 言葉づかいに気をつける。自分の気持ちをわかりやすく伝えるために顔文字などを使う。
	[学習後の解] 携帯を持つことで便利なことも増えるし、楽しいことも増える。だけど、その中でも危険は増えていくことがわかった。LINE や SNS を使うとき、自分の個人情報を守ったり、相手の情報を守ることが大切だと思いました。ネットに載った写真は、一生消えないので、自分の行動に責任を持って使いたいです。
生徒 C	[学習前の解] Twitter や LINE などでは悪口は書かない。
	[学習後の解] LINE ではメリットもデメリットもたくさんあるけど、1 番は相手と自分のことを考えて行動しようと思います。

はじめは、「言葉遣いに気をつけたい」や「時間を決めて使う」という意見が多かった。しかし、ジグソー活動で自分の考えを伝え、仲間の考えや思いを共有することで視野が広がり、深く考える様子がうかがえた。また、対話を通して自分のことをふり返り、見つめ直すことができただけでなく、相手のことも考え、自分の行動に責任を持つという気持ちがうかがえた。

#### イ. 生徒の授業の感想

子どもたちの授業の感想として「道徳でジグソー活動」は、難しいという声が多くあった。しかし、ジグソー活動に慣れるにつれて「ジグソー活動は自分の責任重大だし、それらが合わさって初めて答えが出るので、とても真剣に学べるし、よかった」や「自分の身近な話だから、もう一度考え直してみたり、ジグソー活動のおかげで他の人がどう考えているのか分かったり、そういう風に考え直したり、もう一度心に決めたりできた」、「いろんな考えを知ることができて世界が広がった気がした」、「みんなで話し合うことで、新しい意見や解決策を考えることができました。このような活動がさらに人との関係を良くしていくのだと思いました」、「道徳のジグソー活動は、他の授業のジグソー活動とは違って、よりいろんな人の考えや気持ちが分かったと思います」などの感想に変わった。

#### ウ. 授業者の感想

LINE や SNS の使用の仕方について、今までは漠然と「相手の気持ちを考えて使えばいい」と思っていたが、他の考えや意見を共有することにより、自分の考えが深まり、子どもたちの声から「責任を持って行動したい」という言葉が聞けたことがよかった。しかし、もっと心を揺さぶるような質問があると、情報モラルについてさらに深く考え、葛藤し、活発な対話の中で学びが深まるのではないかという反省が残った。

### IV 知識構成型ジグソー法による道徳授業の課題と次年度の研究に向けて

#### 1 課題

- それぞれのエキスパート資料をどう組み合わせると新たな発見を見いだすか、また、互いの意見をどう組み合わせるといくかが大切である。
- エキスパート資料の作成が大変であった。全職員で資料を共有し、子どもたちが考えたいような資料（教材）作成が必要である。
- 教師側の発問一つで解からズレが生じてくるので、発問の工夫が大切である。
- 教師が資料を吟味し、子どもたちが道徳の授業が

楽しみと言えるような準備が必要である。

- ・指導要領と照らし合わせ、自作資料をどう兼ね合わせていくか、視点をどう捉えていくかが大切。
- ・心の中で思っていること（判断）⇔たてまえの自分（偽り）⇔本当の自分→頭の中では正しい答えが分かっているが、行動に移せない生徒が多い。
- ・深めるためにはどうすればいいのか？もっと輪を広げられるようになるとよい。
- ・エキスパート活動からジグソー活動に移るとき、問いが漠然となってしまう、いったん深めたのが浅くなってしまった。
- ・エキスパート活動で得た自分の考えをジグソー活動へどう持っていくのか？自分の立場がどうなるのか？考えさせる問いかけが大切である。
- ・同じエキスパート資料で、Aさん、Bさん、Cさんの立場で考えるのもよい。しかし、同じ資料なので吟味しないと深まらない。
- ・エキスパート資料を見ながら話し合うのも良い。子どもたちは全部暗記するわけではない。また、写真から読み取るものは、ことばで伝えることは難しいので、資料を参考にする。
- ・道徳的实践力をどう育てていくかが一番の課題である。
- ・夏休みの校内研修においてエキスパート資料を持ち寄り見てもらうことにより、たくさんのアドバイスをもらうことができたので、継続できるとよい。
- ・他の学級で検証授業をさせてもらうことで、次につながれることができた。
- ・附属小学校の道徳授業を参観させてもらい、少しだが連携を持つことができた。次年度は時間割を調整してもらい、もっと連携できるとよい。

## 2 次年度に向けて

本年度は、知識構成型ジグソー法による道徳の授業実践を試験的に行った。その結果、様々な課題がみえてきた。これらの課題を手がかりに、次年度は全職員体制で課題の解決方法を検討し、授業の実践を重ね、研究を推進していきたい。